

東大和市立郷土博物館だより

# 光と風

令和7年10月1日発行 第126号

東大和市立郷土博物館

207-0031東大和市奈良橋 1-260-2

電話 042-567-4800

FAX 042-567-4166

メール [hakubutsukan@city.higashiyamato.lg.jp](mailto:hakubutsukan@city.higashiyamato.lg.jp)

## 企画展示 吉岡堅二展

10月4日(土)～11月9日(日)

会場：郷土博物館 1F 企画展示室

期間中の休館日：

月曜日と10/14(火)・11/4(火)

10/13(月)と11/3(月)は開館します

東大和市ゆかりの日本画家・吉岡堅二は、様々な国を旅して、数多くのスケッチや作品を残しています。

展示を通して、伝統を重んじながらも、異国の芸術や文化に触れながら、新たな刺激や影響を受けたであろう画家の足跡を振り返ります。



### 関連イベント

国の登録有形文化財

### 旧吉岡家住宅 秋の公開

～日本画家吉岡堅二の息吹が感じられるアトリエ～

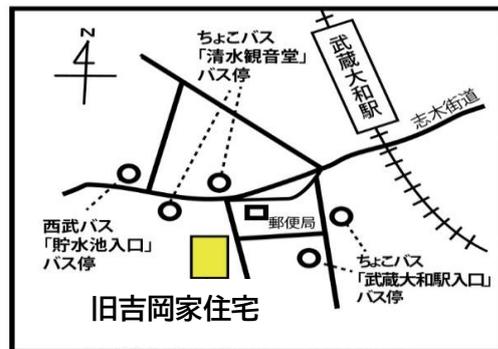
東大和市ゆかりの日本画家・吉岡堅二の旧宅・アトリエをご覧ください。主屋内には吉岡堅二の作品を展示します。  
期間 10月31日(金)～11月2日(日) / 時間 午前10時～午後4時 / 会場 旧吉岡家住宅(清水3-779)

### シャトルバスを運行します

旧吉岡家住宅公開期間中、シャトルバスを運行します。郷土博物館で開催の「吉岡堅二展」と合わせてご覧ください。

**運行時間** 午前11時～午後3時15分 郷土博物館→旧吉岡家住宅：毎時0分発 旧吉岡家住宅→郷土博物館：毎時15分発(最終3時15分)

会場の主屋内では、吉岡堅二の作品を展示するほか、文化財ボランティアによる「おうちガイド」を行います。



## 秋の催し案内

☎マークがついている行事は、事前にお申し込みください。郷土博物館 042-567-4800 までお願いします。

### 戦災建造物

#### 旧日立航空機株変電所の公開

戦災建造物である変電所を公開しています。どうぞお越しください。

公開日 水曜日・日曜日

時間 午前10時30分～午後4時

場所 都立東大和南公園内

### 写真展

#### 戦争の記憶～武蔵野の戦跡写真展～

武蔵野地域にはたくさんの戦争の傷跡が残されています。広瀬敦司氏はこうした戦争遺跡を、丹念に写真に収め記録してきました。

身近な場所にも戦争の傷跡があることを知り、平和の大切さを考える機会として広瀬氏の写真をお借りして展示します。ぜひ、ご覧ください。

期間 11月5日(水)～12月10日(水)の間の水・日曜日(変電所公開日)

時間 午前10時30分～午後4時

会場 旧日立航空機株式会社変電所

### 昼間の星の観察会

#### 太陽と月をみよう



太陽表面の黒点や昼間の月を観察します。

期日 10月13日(月・祝)／午前9時30分～10時30分(時間内ならいつでもどうぞ)／案内 郷土博物館職員／場所 郷土博物館前

### ☎星空観察会

#### 土星をみよう

土星の環は非常に薄く、今年はほぼ真横に見えるため、串団子のような土星を見るチャンスです。秋の星も探します。

期日 10月18日(土)／集合 午後6時・郷土博物館ロビー／定員 40人(申込順)／案内 星空ボランティア・郷土博物館職員／場所 郷土

### 博物館前

### ☎自然観察会

#### 野草教室

リンドウなど秋の花と、木の実・草の実を観察します。スライド解説もお楽しみに。

期日 11月3日(月・祝)／集合 午前9時30分郷土博物館会議室／持ち物 筆記用具／講師 下田治信さん(認定NPO法人KU-MA会員)／観察地 狭山緑地／お昼頃解散します。

### ☎文化財めぐり

#### 旧日立航空機の工場と

#### 南街住宅をたどる(全2回)

今回の文化財めぐりは、日立航空機株式会社ゆかりの土地を歩きます。工場と南街の成り立ちをたどりながら、変電所をめざします。

【学習会】事前に学習会を行います。正午に解散します。

期日 11月3日(月・祝)／集合 午前9時30分・変電所／会場 変電所

【まちあるき】解説を聞きながら、現地を訪ねます。正午に解散します。

期日 11月24日(月・振替休日)／集合 午前9時30分 東大和市駅前／見学コース 東大和市駅～ガス電通り～日立映画館跡～変電所～玉川上水駅(解散)／定員 30人(2日間とも参加できる方を優先)／案内 文化財ボランティア／歩きやすい服装・靴でお越しください。

### ☎自然観察会

#### バードウォッチング

晩秋の雑木林と貯水池で、野鳥観察を楽しみます。

期日 12月7日(日)／集合 午前9時・武蔵大和駅下広場／持ち物 筆記用具・双眼鏡／講師 大庭健二さん(都市鳥研究会幹事)、柴田佳秀さん(日本鳥学会会員)・永石文明さん(東京農工大学講師)／観察地 都立狭山公園・多摩湖 お昼頃解散します。

# プラネタリウム

## プラネタリウム秋番組

12月7日(日)まで好評投影中

	午前11時	午後1時	午後3時
平日			ダイダロスの翼
土日・祝日	新オーロラをみた恐竜たち	ダイダロスの翼	ダイダロスの翼

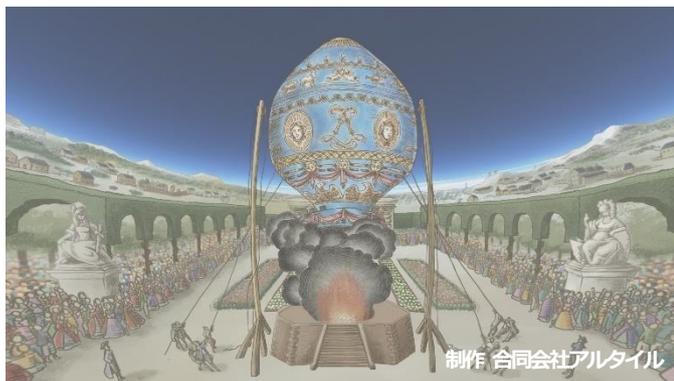
投影途中での入退場はできません。

### 一般番組 つばさ ダイダロスの翼

投影日時 土日・祝日午後1時と3時、平日午後3時、(11月11日を除く)

ダイダロスとイカロス親子のギリシャ神話からはじまる、空を飛べたいと願う人類の夢物語。モンゴルフィエ兄弟は気球を作り、ライト兄弟は飛行機を発明しました。さらには、宇宙へ飛び出しました。

人びとの『空を飛べたい』という夢は、時代を超えて受け継がれていきました。人類が空と宇宙を目指した歴史を、映像と音楽で紹介しします。



### 特別番組 新オーロラをみた恐竜たち

投影日時 土日・祝日午前11時

約7千万年前の白亜紀、地上にはさまざまな恐竜があふれかえっていました。肉食恐竜・ナヌークサウルスの子ども「ヌック」と、植物食恐竜・アラスカケファレの子ども「ファル」という異なる種族である2匹が出会います。鮮やかなオーロラが輝く極地の空の下、太古の昔に生きていた恐竜たちの物語。

## 秋番組の内容と投影時間

どの番組も星座解説があります。投影時間は全体で45分程度です。

【休館日】月曜日(祝日は開館)と祝日の翌日  
10月14日(火)、11月4日(火)、11月25日(火)

11月11日(火)は投影機の保守点検のため、プラネタリウムのみお休みです。

【観覧料】大人300円/小中学生100円/未就学児無料/※障害者手帳をお持ちの方は、ご本人と介助者1人が無料になります。事務室で手帳をお見せください。

## 特別投影 クリスマス投影

プラネタリウムでクリスマスソングと星空を楽しみましょう。職員が直接お話をする投影です。

投影日時 12月20日(土)・21日(日)午前11時～、午後1時～、午後3時～ 50分程度



## 中高生のプラネタリウム発表会

### ぼくらのプラネタリウム☆

今年も中高生がプラネタリウム投影に挑戦します。日頃のクラブ活動の成果をご覧ください。

開催日 12月26日(金) 正午から

参加校(予定) 都立立川高等学校天文気象部、中央大学附属中学校高等学校地学研究部、桐朋中学校高等学校地学部/詳細は、郷土博物館ホームページ等をご覧ください。

☆冬番組は12月13日(土)から投影します。

# 博物館カレンダー

郷土博物館は10月～12月のあいだ、次のように開館します。■は休館日です。

11月11日は投影機器の点検作業のため、12月9日～12日はプラネタリウムの番組すえつけ作業のため、プラネタリウム投影のみお休みさせていただきます。

	日	月	火	水	木	金	土
10 月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
11 月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						
12 月		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3

## この秋の天文ショー

今年の中秋の名月は遅めの10月6日。また、11月5日はスーパームーン。今年最も大きな満月です。

秋の四辺形の南で土星が見頃です。土星の環は非常に薄く、今年はほぼ真横にみえるため、土星が串団子のようなようです。ふたご座流星群は12月14日の夜が極大。下弦過ぎの月が明け方にみえますが、流れ星をみるチャンスです。詳しくは『星だより』をご覧ください。

(野崎)

まちの文化財

あんなもの

こんなもの

## 掛け時計 (かけどけい)



今回は“大きなのっぽの古時計♪ おじいさんの時計♪”という歌を思い出すような背の高い時計をご紹介します。この時計は135 cmあり、平均的な小学校3年生の身長と同じくらいでしょうか。ゼンマイ式の時計で、振り子が揺れて、

正時にボンボンと時刻を知らせます。

かつては、目覚まし時計も、柱時計ともいう掛け時計も、腕時計も、ゼンマイ式の時計でした。年配の方の中には、掛け時計のゼンマイを巻くのが子どものころの仕事だったという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、今では乾電池やソーラー電池で動く時計がほとんどで、ゼンマイ式の時計は時計愛好家の世界のもののようなのです。正確さでいえば、電池やソーラー電池で動くクォーツ時計、さらにほんのわずかな誤差も自動で修正する電波時計には劣りますが、ゼンマイがほどけてきて、わずかに時計に遅れが出るところは、「おなか減ったよお」と言っているようで、機械ながら人間的な感じがしませんか。

この大きな時計は、1972年10月の開園以来、2024年3月の閉園まで、やまとあけぼの学園の玄関ホールで、朝夕通園してくる子どもたちの元気な姿を、そして成長していく姿を見守っていました。そして今は静かに、収蔵庫で、皆さんに会える日を待っています。

(梶原)